

街なみ瓦版

令和7年度 第3号

戸次本町街づくり推進協議会の30年

戸次本町推進協議会 会長 石井 鏡成

戸次本町街づくり推進協議会（以下、協議会）は平成7年度に発足し、今年度で30年を迎えました。当初は街並み保存の合意形成まで時間がかかりましたが、地域住民や大分市などの行政、（公益社団法人）大分県建築士会など多くの賛同者の熱意で、大分市内で唯一の歴史的な街並みが残りました。30年を振り返ると「戸次本町の歴史的街並み」の保存運動にご尽力頂いた先輩たちのお顔が走馬灯のように蘇って参りました。これまで、ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

協議会では30年にわたり様々な活動を行なってきました。発足時から「街なみ瓦版」の発行、定例会の開催、そして全国町並み保存連盟に所属し、先進地域との交流を図り知見を広げると共に、全国に情報発信を行ってきました。平成15年に「帆足本家酒造蔵」の修理が完成すると共に、協議会活動も活発となり、同16年には「よいやかがり火」が開催されます。同21年には街並みスケッチ大会開催、同22年には街並みガイド「杏の会」の発足、酒造蔵西広場の清掃活動など、長年にわたり活動を継続してきました。最近では酒造蔵での「蔵シックコンサート」「在戸蔵（あるとくら）主催のイベント」など、新しい企画のイベントも活発に行われています。

今年度は、協議会が中心となり「大南いろはカルタ」を製作しました。大南地区（戸次・判田・竹中・吉野）に息づく歴史、語り継がれてきた物語、日々の暮らしの中にある風景を、絵札と読み札に込めています。遊びながら学び、ふるさとの歴史と深みを感じて、豊かな心を育み、子どもからご年配の方まで、世代を超えて楽しめるよう、製作しています。

地区の歴史や文化は先人たちが残したかけがえのない遺産です。一度、壊れたら、二度と同じものをつくることはできません。豊かな自然景観、歴史的街並み、食文化、郷土芸能などを、みんなで守り伝え、未来につないでいく事は私たちの大切な務めです。

人口減少地域に住んでいる私たちに、これから益々必要になってくることは、コミュニティの維持や再生であると思います。地域づくりに重要なことは、住民が自主的にまちづくりに関わり、まちづくりを通して積極的に交流し、地域の未来についてみんなで共有しあう事だと思います。行政には、地域の人々の意見を汲み上げ、大南地域の实情に即した施策を期待します。

戸次の歴史を学ぶなかで、心に残る多くの言葉に出会いました。その中で、故 野中太郎氏の「昔の戸次地方」（落穂に掲載）の一文を紹介します。

「歴史を知るとは 実に楽しく 人生を豊かにするものである。急がしい世の中になればなる程に心の拠り所を持ちたい気持ちでいっぱいになる。余暇をみつめて遠い昔、祖先達が如何に生きたかを知るとは、私達自身の為だけでなく、次の代の子や孫の為にも大切なことであろう。」

戸次の歴史と文化を学び、街並みや伝統を次世代へと受け継ぎ、人々が豊かに暮らせるまちであり続けることを願います。

ご挨拶

戸次本町街なみガイドグループ杏の会 会長 大野京子

師走に入り、何かと慌ただしい時期となりましたが、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。

戸次本町地区のガイドグループ「杏の会」が発足から、丸15年を迎えました。江戸時代から戦前にかけての建築物が多く残る街並みを、外観だけでは分からないエピソードを知ってほしいと、前・金子多美子会長が、ガイド活動を始め平成22年10月に「杏の会」を立ち上げ、現在男女18人で活動しております。10年程前より、会員の庭先に植え立派に成長し、毎年杏の実でジャムを作成して皆様に喜ばれています。

また一昨年より、行政のお力添えにより「だいなんワッフル」を提供できるようになり私たちは「あんずワッフル」と題してイベント時に出品し好評を頂いています。会員全員が仲良く、楽しくをモットーに活動していますが、これからの課題としまして、会員の高齢化に伴い、後継者の育成が懸念されるところです。

皆様「杏の会」に興味のある方、お気軽に参加をお待ちしております。15年の節目に、会員一同また新たな発見や取り組みを考え「杏の会」を発展させていきたいと思ひます。

